

年 組 名前:

問1

山梨県内で、天然氷の製造量が減少した理由を教えてください。

.....
.....

問2

今年の天然氷の製造量は、例年と比較すると、どれほど減少しましたか。

.....

問3

北杜市の天然氷を製造する会社は、どのような方法で天然氷を製造していますか。

.....
.....
.....
.....
.....

天然氷 暖冬で品薄



天然氷のかき氷を楽しむ家族。今年は1月の暖冬で天然氷の製造量が少なくなった。甲府市内

北杜の製造会社例年の3分の1に

今年1〜2月の暖冬の影響で、山梨県内で天然氷の製造量が減少し、かき氷専門店がより1カ月ほど早く終了する店があるほか、水を代替品に変更することを検討する店舗もある。9月も厳しい暑さが続く見通しで、店主らは「客離れにつながるまいか」と苦慮している。

北杜市で天然氷を製造する「八義」は市内3カ所の人工池で、井戸から直接くみ上げた八ヶ岳南麓の地下水を自然の寒さで凍らせて氷を製造している。今年の製造量は例年の約3分の1の70〜80ほどにとどまった。

甲府地方気象台によると、北杜・大泉の1月の月平均気温は1.5度で、平年より1

県内かき氷店 早めの終了も

7度高かった。八義によると、天然氷は降雨で溶けてしまつたため、雨が降り出す前に池から切り出すなどしたといひ、例年よりも製造量が減少した。

毎年11〜12月ごろまで天然氷を出荷しているが、今年は計80量ほどの広さの氷室2部屋に保管する天然氷の在庫が8月下旬に全てなくなった。

直営店は例年、5月上旬から9月末まで営業しているが、今年は8月末までに変更。同社の中理絵子さんは「取引先に十分な量を提供できず、申し訳ない」と話した。

八義から天然氷を仕入れ、通年で営業する甲府市国母8丁目のかき氷専門店「甘味処

若義」(小椋祥平社長)は、繁忙期の8月の1カ月間で100kg以上の天然氷を使うという。8月中旬に仕入れた天然氷は残り60kg(約300杯分)ほどになっており、小椋社長は「在庫がなくなったら、値段を下げて純氷を使ったかき氷に変更するしかない」とため息をつく。

天然氷を使ったかき氷は人気が高いといい、小椋社長は「ふわふわとした食感で他の氷にはない魅力がある」と説明。「純氷に変更することで、味や食感も変わってしまう。客離れが心配だ」と表情を曇らせた。

〈森山花音〉

(2024年9月1日付 山梨日日新聞 20面)

問4

天然氷のかき氷と純氷を使ったかき氷とでは、どのように違うか教えてください。

.....